衛生管理者免許試験　公表問題

労働衛生（有害業務に係るもの以外）

① 温熱条件
② 視環境
③ 必要換気量
④ 快適職場
⑤ 労働安全衛生マネジメントシステム
⑥ 腰痛予防対策
⑦ 受動喫煙防止のガイドライン
⑧ 食中毒
⑨ 感染症
⑩ 情報機器作業
⑪ 労働衛生対策
⑫ 健康保持増進
⑬ メンタルヘスル対策
⑭ エイジフレンドリー
⑮ 健康診断の検査項目
⑯ 労働衛生管理統計
⑰ 脳血管障害・虚血性心疾患
⑱ 一次救命処置
⑲ 出血・止血法
⑳ 熱傷
㉑ 骨折

新潟ウェルネス
一般社団法人 新潟県労働衛生医学協会

【令和 6 年 4 月】

【 問３８ 】　骨折に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

（１）単純骨折とは、骨にひびが入った状態をいう。

（２）複雑骨折とは、骨が多数の骨片に破砕された状態をいう。

（３）不完全骨折では、骨折端どうしが擦れ合う軋轢音や変形などが認められる。

（４）脊髄損傷が疑われる場合は、動かさないことを原則とするが、やむを得ず搬送する場合は、負傷者に振動を与えないようにするため、柔らかいマットに乗せる。

（５）骨折に対する処置として、副子を手や足に当てるときは、骨折部分の上下の関節まで固定できる長さで、かつ、幅の広いものを用いる。

▶▶解説◀◀

（１）誤り：単純骨折とは、皮膚に損傷がなく、皮膚の下で骨が折れている状態をいう。骨にひびが入った状態は、単純骨折の不完全骨折に分類される。

（２）誤り：複雑骨折とは、開放骨折のことをいい、皮膚及び皮下組織が損傷し骨折した骨が外に出ている状態をいう。

（３）誤り：「不完全骨折」⇒「完全骨折」。

（４）誤り：脊髄損傷が疑われる場合は、硬い板の上にのせて固定し、搬送する。

（５）**正しい**

＊解答＊　（５）

【令和元年 10 月】

【 問３８ 】　骨折及びその救急処置に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

（１）骨にひびが入った状態は、単純骨折である。

（２）複雑骨折とは、骨が多数の骨片に破砕された状態をいう。

（３）開放骨折では、感染を防ぐため、骨折部を皮膚の下に戻してから副子で固定する。

（４）不完全骨折では、変形や骨折端どうしが擦れ合う軋轢音が認められる。

（５）脊髄損傷が疑われる負傷者を搬送するときには、柔らかいマットの上に乗せるようにする。

▸▸解説◂◂

（１） **正しい**

（２） 誤り　:「骨が多数の骨片に破砕された状態」⇒「骨とともに皮膚、皮膚組織が損傷し、骨折部が露出した開放骨折のこと（開放骨折ともいう）」

（３） 誤り　:「骨折部を皮膚の下に戻してから」⇒「皮膚から突き出した骨は戻さず」

（４） 誤り　:「不完全骨折では」⇒「完全骨折では」

（５） 誤り　:「柔らかいマットの上」⇒「硬い板の上など」

＊解答＊　（１）

【平成 30 年 10 月】

【 問３８ 】　骨折及びその救急処置に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

（１）骨にひびの入った状態を不完全骨折といい、骨が完全に折れている状態を完全骨折という。

（２）骨が１か所で折れている状態を単純骨折といい、骨が２か所以上で折れたり、砕けている部分のある状態を複雑骨折という。

（３）骨折部の固定のための副子を手や足に当てるときは、手先や足先が副子の先端から出るようにする。

（４）皮膚から突出している骨は、直ちに皮下に戻すようにする。

（５）脊髄損傷が疑われる負傷者を搬送させる必要があるときは、硬い板の上に乗せてはならない。

▸▸解説◂◂

（１）**正しい**

（２）誤り：「単純骨折」は閉鎖骨折ともいい、皮膚の下で骨が折れている状態。「複雑骨折」は開放骨折ともいい、皮膚、皮下組織が損傷し骨折部が露出し感染を起こしやすく治りにくい。

（３）誤り：副子を手や足に当てるときは、その先端が手先や足先から少し出るようにする。

（４）誤り：皮膚から突出している骨は戻してはならない。

（５）誤り：脊髄の損傷が疑われる場合は、救急搬送を要請し、動かさないことを原則とするが、やむを得ず搬送する場合は、頸部を動かさないようし、硬い板などの上などにのせる。

＊解答＊　（１）